

令和7年度 学校評価報告書

学校番号(小10) 長崎市立(西坂小)学校

1 教育目標

「夢をもち、ふるさとを愛し、人とつながる子ども」の育成

2 学校経営方針

- (1) 関係法令、学習指導要領及び県・市の教育方針に則り、第4次長崎市教育振興基本計画の目指す姿である「長崎の町を愛する気持ちを持ち、変化に対応しながら、新たな時代を強く生き抜く力を身に付けている」子どもの姿の実現を図るとともに、本校の実態に即した教育活動を推進し、教職員、保護者、地域、関係機関が一体となり、子ども一人一人が生き生きと輝き、笑顔あふれる、信頼と活力のある学校を目指す。
- (2) 児童の実態、社会や時代の要請、保護者・地域の願いを踏まえ、多様な他者との共生を通して、誰一人取り残すことなく「夢をもち、ふるさとを愛し、人とつながる力を身に付けた、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出すことのできる児童」を育成する。

3 重点目標

- (1) 「確かな学力の向上」…学力向上の推進(学びを楽しみ、互いに高め合う子どもの育成)
- ・校内研究の充実及び授業改善
 - ・学力調査を検証軸とした取組
 - ・ふるさと教育及びキャリア教育の充実
- (2) 「健やかな心と体を育成」…挨拶、ルール・マナーの定着(子どもたちの社会性の育成「ならぬことはならぬ」)
- ・挨拶と返事、履き物並べ、無言清掃
 - ・いじめを絶対に許さない人権意識の向上
- (3) 「学校・家庭・地域の連携による教育の充実」…地域を学ぶ、地域と学ぶ、地域で学ぶ取組の充実(社会性とふるさと愛の育成)
- ・地域の一員としての自覚を高める地域の貴重な教育資源を生かした取組
 - ・家庭や地域との情報共有
 - ・連携と協働
- (4) 「安全・安心に学べる教育環境を整備」…子どもの命と安全を守る
- ・「子どもの危険」を絶対に見逃さない「居るべき時に居るべき場所に居る教師」
 - ・熱中症や感染症への対策

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果(R7)			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保護者	教職員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	95	100	100	今年度、教育目標を変更したが、児童や保護者・地域の方にことある毎に話題としてきた。その結果、十分な周知が図られ、年間を通して教育目標を意識した活動を進めることができた。 業務の改善については、昨年度の評価結果を踏まえ、校務内容の均等化を図りながら、通知表の二期制実施やフレックスタイム・年休取得の推進及び制度を利用しやすい職場の雰囲気づくり等を進めてきた。その結果が教職員の高評価となって表われてたものとする。
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	98	97	100	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			100	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	99	100	100	児童や保護者に寄り添いながら、安全安心に学べる教育環境を整備することを重点目標の一つと位置付けて取組を進めてきた。「教職員は悩みや相談に親身に対応している」の項目について、児童・保護者とも高い評価を受けたことは、教職員の共感的な姿勢や日々の地道な努力が評価されたものとする。「挨拶をよくしている」や「学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている」の項目については、児童と保護者の評価が分かれた。学校の内と外での児童の態度の違いや学校の取組が保護者に十分伝わっていないことが考えられるので、地域の一員としての自覚を高める取組や情報発信をさらに推進していきたい。また、「学校はいじめ防止」の項目では、児童への質問内容を「相手が嫌と思うことをしたことがありますか。」から「～したり、されたりしたことがありますか。」と被害者側の現状を把握できるようにした。そのため、例年より肯定的評価が減少したものとする。今後も誰一人取り残さないという学校の姿勢を児童一人一人にしっかりと伝えられるよう組織的な取組をさらに図っていききたい。
		挨拶をよくしている	99	85	100	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	99	73	100	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	100	100	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	85	93	100	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	100	97	89	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	100	97	100	
確かな学力	特色ある学校づくり 学習指導 ・教育課程 キャリア教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	100	96	100	
		伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	100	100	100	
		わかりやすい授業を行っている	99	100	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	97	91	100	
		将来の自立に向けて適切に指導している	100	94	100	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	99	97	100			
健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	99	97	100	児童の体力向上がここ数年の本校の課題の一つとなっている。夏から秋にかけて今年度も熱中症が心配される日が続き、児童の運動や遊びを制限することが多くあり、思うような体力向上の方策が図れなかった。2学期後半からは、「縄跳び道場」などの取組を進め、児童の体力向上に対する意識の高まりを感じる。「食育」については、担任による指導や他校の栄養教諭を招いての指導等を行っているが、そのことが保護者にまでは十分伝わっていないことが考えられる。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	89	89	100	
		体力向上に努めている	95	94	100	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	99	91	100	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	92	94	100	本校は地域との連携が子どもを守るNW会長を中心に十分に図られている。定例的に「地域見守り集団下校」を行っていることで、安全管理については、一定の評価を得ている。また、今年度も地域と連携した多くの行事が開催され、地域の中の子どものという風土を感じる。ただ、事前の準備等、関係者の負担が強くなりたくないよう、今後も効率的な行事の開催に向けて、地域と協議しながら進めていく必要がある。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	100	86	100	
	P T A ・ 地 域 と の 連 携	学校はPTAや地域との連携がとれている	97	100	100	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	100	97	100	教育環境については、地域や保護者からの意見に対し、素早く対応でき、樹木の剪定等にも計画的に取り組むことで高評価が得られた。施設の老朽化は見られるが、掃除の行き届いた、美しい学校を目指して取組を継続していく。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

- 今年度より「夢をもち、ふるさとを愛し、人とつながる」を教育目標に据え、学校全体で目標に対する意識を継続させながら取り組んでいる。その教職員の日々の地道な努力が子どもや保護者にしっかりと伝わったように感じる。今後は、「子ども、保護者、地域」の三方向良しに、教職員の「働きがい」に対する取組をさらに進めることで、教育の質を今以上に高められるよう環境を整えていきたい。
- 喫緊の課題である体力向上については、イベント的な取組に加え、体育科の授業で日常的に行っている西坂セット運動に持久力向上につながる運動を加えることで体力の増進を図っている。
- 地域の様々な行事に対して学校や育英会が主体的に協力したり、学校の行事に関しては地域の方々が積極的に参加したりしていただいていることで、地域の中の学校として充実した活動が行えている。そのような中、地域の方々の高齢化が懸念されるところである。今後も地域の中の学校として充実した活動が行えるようコミュニティースクールを見据えながら、持続可能な体制づくりを学校、保護者、地域で知恵を絞っていききたい。

6 学校関係者評価

- 学校運営については、昨年度と比べると教職員の評価が向上していることは、大変喜ばしいこと。教職員が働きやすい環境づくりは、最終的に子どもたちに良い影響となって表れるであろうから、今後もさらに推進してもらいたい。
- 保護者や地域の協力により生活指導上の問題で教職員の業務時間が割かれることが少ないということは、働き方の面においても精神的な面においても大変すばらしいこと。今後も保護者や地域との協力体制や信頼関係づくりを維持、増進させてもらいたい。
- 教職員が日々努力していることが児童や保護者に高評価を受けていることは大変喜ばしいこと。学校の一人も取り残さないという姿勢がしっかりと伝わっていると感じる。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- 学校評価アンケートで肯定的評価をいただいた内容については、それに安心することなく、今後も児童を一人も取り残さない姿勢と保護者に寄り添った態度で教育活動を行っていききたい。本校の課題である体力の向上については、運動する機会をイベント的に実施するだけでなく、体育科授業の準備運動や縦割り遊びなど、年間を通して行う取組を今年度から実施しているので、今後も継続することで体力向上を図りたい。
- 教職員の働きやすい環境づくりについては、まだ、一部の教職員しか取得していないフレックスタイムの奨励等を他の職員へ広げたり、職員の意見が学校運営に反映しやすい体制づくりを行ったりすることでさらに働きやすい環境の推進に努めていきたい。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

< 参考例 > 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。